学校番号	３０８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂版　最新「数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	改訂版　3ROUND 数学Ⅰ　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・協働学習・反復学習を通して、数学を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、問題を考察する力や実践的な計算力を養います。
・身近にある数学的事象について学び、数学を活用して問題を解決する力をつけましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析について，基礎的な知識と技能を習得する。
【思考力、判断力、表現力等】事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようになるとともに，それらを活用する力を育てる。
【学びに向かう力、人間性等】数学を適切に活用するとともに、実生活における数学的問題に主体的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，様々な事象を数学的に解釈したり，表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，根気強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数と式	1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 6. 不等式の性質 7. 1 次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	a: 単項式, 多項式, 同類項, 次数など式に関する用語を理解している。多項式を降べきの順に整理することができる。多項式の加法, 減法, 乗法の計算ができる。因数分解の公式を使うことができる。実数の分類を理解している。根号の意味を理解し, 計算ができる。不等式の性質を理解し, 1次不等式の計算ができる。 b: 式の一部を文字に置き換えたり, ある文字で整理したり, 様々な工夫をして因数分解をすることができる。絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる。 c: 数と式の整理の仕方に関心をもち, 考察しようとする。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り
	第2章 集合と命題	1. 集 合 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明	a: 集合における共通部分や和集合などの用語を理解している。命題と条件の定義を理解し, 命題の逆・裏・対偶を作ることができる。 b: 対偶や背理法を用いて, 証明を行うことができる。 c: 集合の考え方や命題の証明に関心を持ち, 考察しようとする。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

2学期	第3章 2次関数	1. 関数とグラフ 2. 2 次関数のグラフ 3. 2 次関数の最大･最小 4. 2 次関数の決定 5. 2 次方程式 6. 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 7. 2 次不等式	a: 関数の定義を理解し,1 次関数,2 次関数のグラフを描くことができる。2次関数を平方完成し,頂点や軸を求めることができる。定義域などの条件から 2 次関数の最大･最小を求めることができる。通る点や軸などの条件から 2 次関数の式を決定することができる。2 次関数を利用して,2 次方程式や 2 次不等式を解くことができる。 b: 2 次関数の最大・最小を求める方法などを応用して,いろいろな問題を解くことができる。 c: 2 次関数の活用方法に関心を持ち、考察することができる。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定 期 考 査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り
	第4章 図形と計量	1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	a: 三角比の定義や相互関係を理解している。90 度以上の角度について三角比が拡張できることを理解している。正弦定理・余弦定理を理解し,使うことができる。三角比を用いて三角形の面積を計算することができる。 b: 三角比やその公式を用いて,三角形の辺や角度、面積の問題を解くことができる。 c: 三角比の活用方法に関心を持ち,考察することができる。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定 期 考 査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

3学期	第5章 データの分析	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	a: データをヒストグラムなどに整理する有用性を理解している。データの代表値を求めることで,そのデータの特性を表すことができる。四分位数や箱ひげ図,分散,標準偏差を用いて,データの散らばりを表現することができる。相関係数を用いて2つの変量の間の関係を調べることができる。仮説検定の考え方を理解している。 b: 実際のデータを用いて,どのような分析をすればよいか考察し統計処理を行うことができる。 c: データの分析に関心を持ち,その活用方法を考察することができる。	小テスト 定期考査	パフォーマンス課題 定期考査	授業観察 パフォーマンス課題 ワークシート 振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度